

生命は
自分自身では完結できないように
つくられているらしい
花も

めしべとおしべが揃っているだけでは
不十分で
虫や風が訪れて
めしべとおしべを仲立ちする

生命はその中に欠如を抱き
それを他者から満たしてもらうのだ

世界は多分
他者の総和

しかし

互いに

欠如を満たすなどとは

知りもせず

知らされもせず

ばらまかれていている者同士

無関心でいられる間柄

ときに

うとましく思うことさえも許されている間柄

そのように

世界がゆるやかに構成されているのは

なぜ？

花が咲いている
すぐ近くまで

蛇の姿をした他者が

光をまどって飛んできている

私も あるとき

誰かのための蛇だったのだろう

あなたも あるとき

私のための風だったのかもしれない

あなたも あるとき

私のための風だったのかもしれない